

| 科目名<br>Course Name   |                         | 開講年次                         | 開講学期        | 曜日・時限        |
|--|-------------------------|------------------------------|-------------|--------------|
| 子どもの保健 I<br>Child Health I   |                         | 1年                           | 通年          | 別途、時間割参照     |
| 単位数  | 授業の形態                   | 授業の性格                        |             | 履修上の制限       |
| 4単位  | 講義                      | 選択                           | (保育士養成課程必修) | こどもフィールドのみ   |
| 当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目   |                         |                              |             |              |
| 保育士資格取得に必要な科目  |                         |                              |             |              |
| 同時に履修しておくことが望まれる科目   |                         |                              |             |              |
| 特になし   |                         |                              |             |              |
| 担当者に関する情報  |                         |                              |             |              |
| 氏名   | 研究室の場所                  | オフィスアワー                      |             | 電話番号・メールアドレス |
| 長谷川久美子   | 講義棟 1階                  | 授業中に指示します                    |             | 授業中に指示します    |
| 授業の概要  |                         |                              |             |              |
| 「子どもの健康と安全を守る」ことを本講義の目的とし、①母子保健行政との関わり、②家庭・地域社会その他関係諸機関との連携、③養護や保育、④病気や障害のある子どもたちの理解と対応、⑤個々の子どもと子ども集団全体の保健的対応を主たる授業内容とする。更に、現代社会の健康問題や今日的な課題にも言及し、子どもを取り巻く環境の変化を視野に入れ、専門的・基礎的な医療系の知識と併せて健康と安全に関わる知識の修得を図る。 |                         |                              |             |              |
| 授業の目標  |                         |                              |             |              |
| ①子どもの心身の健康維持・増進を図る保健活動の意義を説明することができるようにする。②子どもの身体発育や生理機能および精神・運動機能の発達について正確に認識し、説明することができるようにする。③子どもの健康と疾病、疾病予防について、信頼性のある正しい情報の基で正確に認識することができるようにする。④保育環境・および衛生・安全管理について説明することができるようにする。                  |                         |                              |             |              |
| 授業の方法  |                         |                              |             |              |
| 配布したプリントと板書による講義形式で行うが、受講生と双方向の授業を目指す。事例紹介、ニューストピックスなどを取り入れて最新情報を提供し、保健分野（主に子どもの保健）の現状を確認する。   |                         |                              |             |              |
| 学習の成果（学習成果）  |                         |                              |             |              |
| ①発育期の年齢区分による形態や機能的な特徴を正しく認識し、説明することができるようにする。②小児期の健康な身体作りが土台となり、個人の一生に多面的に影響することを重視し、保健指導の場面に生かすことができるようにする。③看護・医療分野の基礎的専門知識を、日常の保育活動に活用することができるようにする。   |                         |                              |             |              |
| 授業のスケジュールと内容   |                         |                              |             |              |
| 第1回目   | ガイダンス（授業の概要説明と小テストについて） |                              |             |              |
| 第2回目   | 子どもの健康と保健の意義①           | 保育における保健活動                   |             |              |
| 第3回目   | 子どもの健康と保健の意義②           | 健康の概念と健康指標                   |             |              |
| 第4回目   | 子どもの健康と保健の意義③           | 子どもに関わる諸統計（人口動態統計からみた子どもの保健） |             |              |
| 第5回目   | 子どもの健康と保健の意義④           | 子育て支援の現状と地域保健活動              |             |              |
| 第6回目   | 子どもの発育・発達①              | 生物としてのヒトの成り立ち                |             |              |
| 第7回目   | 子どもの発育・発達②              | 発育・発達の原則（発達の方向性）             |             |              |
| 第8回目   | 子どもの発育・発達③              | 発育の特徴                        |             |              |
| 第9回目   | 子どもの発育・発達④              | 乳幼児各期の身体発育                   |             |              |
| 第10回目  | 子どもの発育・発達⑤              | 身体発育の評価                      |             |              |
| 第11回目  | 子どもの発育・発達⑥              | 生理機能の発達—生命現象・脳の発達            |             |              |
| 第12回目  | 子どもの発育・発達⑦              | 生理機能の発達—体温・呼吸機能・循環機能その他      |             |              |

|  |   |  |
|--|---|--|
| 第13回目  | 子どもの発育・発達⑧  | 運動機能・精神機能の発達   |
| 第14回目  | 子どもの発育・発達⑨  | 乳幼児・学童の運動発達  |
| 第15回目  | 子どもの発育・発達⑩  | 運動機能・精神機能の発達評価   |
| 第16回目  | 子どもの健康と疾病①  | 子どもの健康と健康状態の観察   |
| 第17回目  | 子どもの健康と疾病②  | 疾病の支援体制  |
| 第18回目  | 子どもの疾病①   | 子どもの病気の特徴  |
| 第19回目  | 子どもの疾病②   | 感染症—感染症予防法と感染症の分類  |
| 第20回目  | 子どもの疾病③   | 感染症—感染症の予防対策（学校保健安全法）  |
| 第21回目  | 子どもの疾病④   | 子どもの感染症—ウイルス感染   |
| 第22回目  | 子どもの疾病⑤   | 子どもの感染症—細菌感染   |
| 第23回目  | 子どもの疾病⑥   | 子どもの病気の予防—予防接種（免疫のしくみ）   |
| 第24回目  | 子どもの疾病⑦   | アレルギー疾患  |
| 第25回目  | 子どもの疾病⑧   | 先天性疾患  |
| 第26回目  | 子どもの疾病⑨   | 子どもに多いその他の病気（臓器別）—1  |
| 第27回目  | 子どもの疾病⑩   | 子どもに多いその他の病気（臓器別）—2  |
| 第28回目  | 子どものこころの健康  | 子どもの生活環境と心の健康  |
| 第29回目  | 子どもの環境と保健   | 子どもの事故の現状と安全対策   |
| 第30回目  | 健康および安全への取り組み   | 組織的・計画的な取り組み   |
| 事前・事後学習  | ITや図書館を活用して、授業での不明な点は必ず次回授業までに調べておくこと。また、科目担当者に質問に行くこと。 |  |
| 成績評価の方法と基準   |   |  |
| 評価の領域  | 割合  | 評価の基準  |
| 授業参加態度   | 10%   | 教材を常に準備して授業に臨んでいる。授業に集中し、ノートをきちんととっている。不明な点があれば積極的に質問し、科目担当者からの質問にも意思表示を明確にしている。 |
| レポート   | 10%   | 出題者の意図に合致したものとなっている。また、詳細に課題を探究し、内容構成もしっかりしている。                                  |
| 調査報告書  |   |  |
| 小テスト   | 10%   | 授業スケジュールの中間で実施。設問5題程度で実施し、授業内容が正確に表現されている。                                       |
| 試験   | 70%   | 記述式で設問内容の要件を満たし、授業内容が正確かつ要点が表現されている。明確に表現されている。学期末定期試験の評価基準C（60—69）以上とする。        |
| 発表内容（態度含む）   |   |  |
| その他  |   |  |
| 教科書と参考図書   |   |  |
| 教科書：「子どもの保健Ⅰ」学建書院 参考書・参考資料：授業の中で適宜指示またはプリント配布 母子健康手帳 |   |  |
| 履修上の留意点・ルール  |   |  |
| 目的意識・課題意識を明確にして授業に臨む。遅刻厳禁。                           |   |  |